

# SPOD-FDマップ作成までの プロセスとその成果

杉田郁代<sup>1)</sup>、吉田 博<sup>2)</sup>、仲道雅輝<sup>4)</sup>、上月翔太<sup>4)</sup>、  
塩川奈々美<sup>2)</sup>、高畑貴志<sup>1)</sup>、蝶 慎一<sup>3)</sup>

1) 高知大学 学び創造センター 2) 徳島大学 高等教育研究センター

3) 香川大学 大学教育基盤センター 4) 愛媛大学 教育企画室

# 発表構成

1. はじめに
2. FDマップの開発
3. 成果と今後の展望

作成したFDマップはこちらでご覧いただけます。  
<https://miro.com/app/board/uXjVP8Wrpfl=/>



# 1. はじめに

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)は、加盟する高等教育機関の連携・協働によりFD・SD事業の推進等を図る組織である。

2008年度文部科学省戦略的大学連携支援事業(16大学による共同申請)の採択を受けて発足し、2022年度現在、四国地区の35の高等教育機関(四国地区に一部の学部等を置く大学を含む)によって構成されている(SPOD 2022)。



<https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

# 1. はじめに

SPODは、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出することを目指しており、2009年度からFDプログラムを共同開発し、加盟校に開放している。

## ◆SPOD加盟校が受講可能なFDプログラム◆

- ・ SPOD加盟校で開催されSPOD内に開放されているFDプログラム
- ・ SPODフォーラムで開催されるプログラム
- ・ SPOD内講師派遣プログラム

# 1. はじめに

本研究は、SPOD講師派遣事業を含む、各FDプログラムを整理、図示したFDマップを開発することで、SPODで実施しているFDプログラムの現状を可視化するものである。

FDマップの  
意義

開発者：

今後のプログラム開発のための有益な資料となる

加盟校教職員：

それぞれのニーズに応じた各FDプログラムへのアクセスを容易にする

## 2. FDマップの開発

FDマップは、国立教育政策研究所FDer研究会による「**FDマップのフレームワーク**」（国立教育政策研究所FDer研究会編2009）を参考に、SPODが提供するFDプログラムを分類することで作成。

### ◆ FDマップの構成

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・ プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・ 教育制度
I. 導入 (気づく・わかる)			
II. 基本 (実践できる)			
III. 応用 (開発・報告できる)			
IV. 支援 (教えられる)			

横軸：レベル

(ミクロ、ミドル、マクロ)

縦軸：段階

(I 導入、II 基本、III 応用、IV 支援)



## 2. FDマップの開発 作成の過程

### 【事前準備】

自大学で開催する上記のFDプログラム（各コア校で実施した開放プログラム、SPOD講師派遣プログラム、学内限定プログラム）を記入したエクセルのシートを事前に作成

### 【第1回ミーティング】

オンラインホワイトボードMiroを利用して、前述のFDマップのフレームワークを参考に、分類・整理

### 【第2回ミーティング】

第1回ミーティングを受けて、分類した内容に関する検証

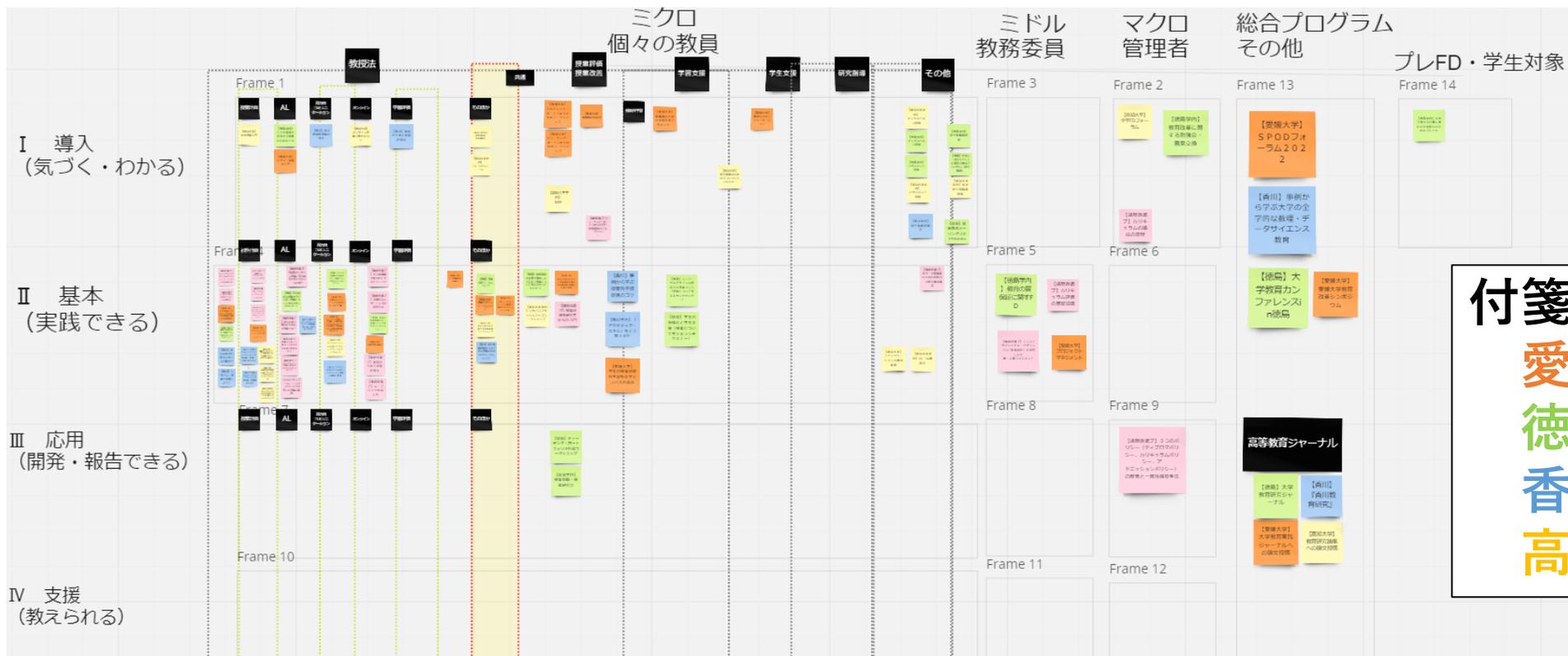
### 【第3回ミーティング】

第2回ミーティングを受けて、6分類に整理したものの検討

- FDマップの開発にあたっては、各コア校のFD担当者が集まり、3回にわたってミーティングを行った。
- 分類の検討は、5名の高等教育を専門とする研究者によって行われた。

## 2. FDマップの開発 【第1回ミーティング】

FDプログラム（各コア校で実施した開放プログラム、SPOD講師派遣プログラム、学内限定プログラム）をMiro（オンラインホワイトボード）上に貼付した。

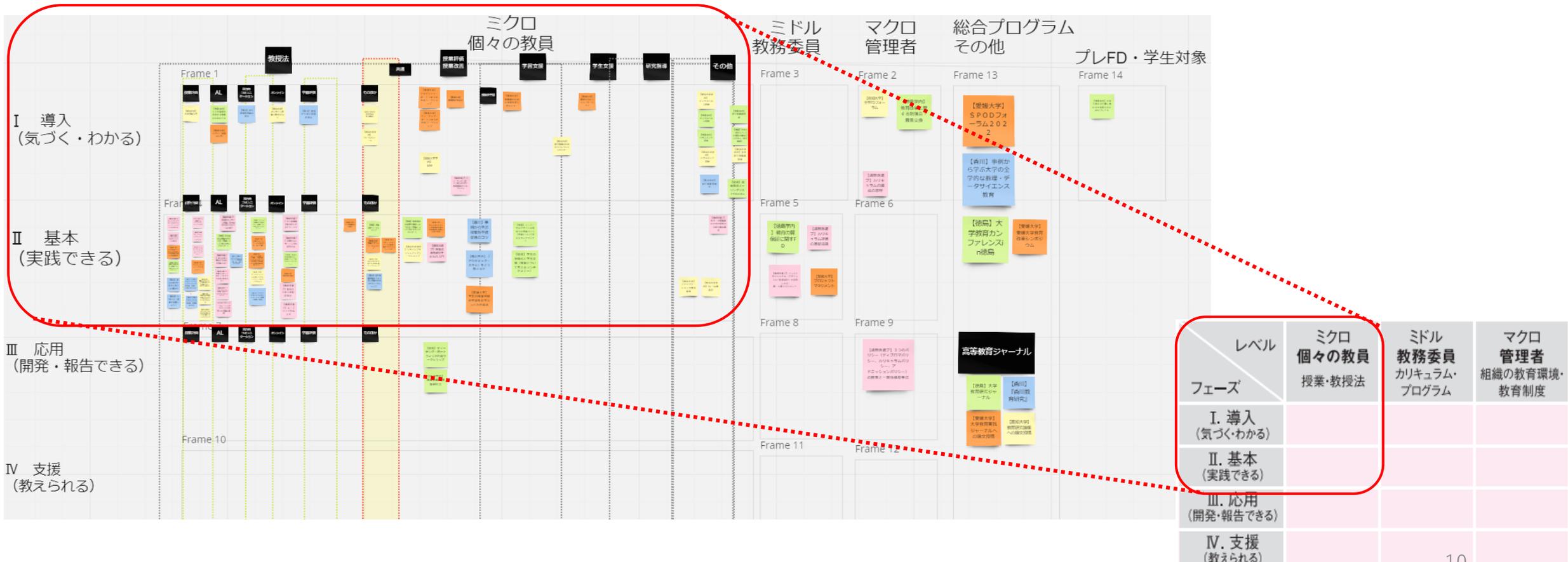


**付箋紙の色凡例**  
 愛媛大学…オレンジ  
 徳島大学…緑色  
 香川大学…青色  
 高知大学…黄色

# 2. FDマップの開発 【第2回ミーティング】

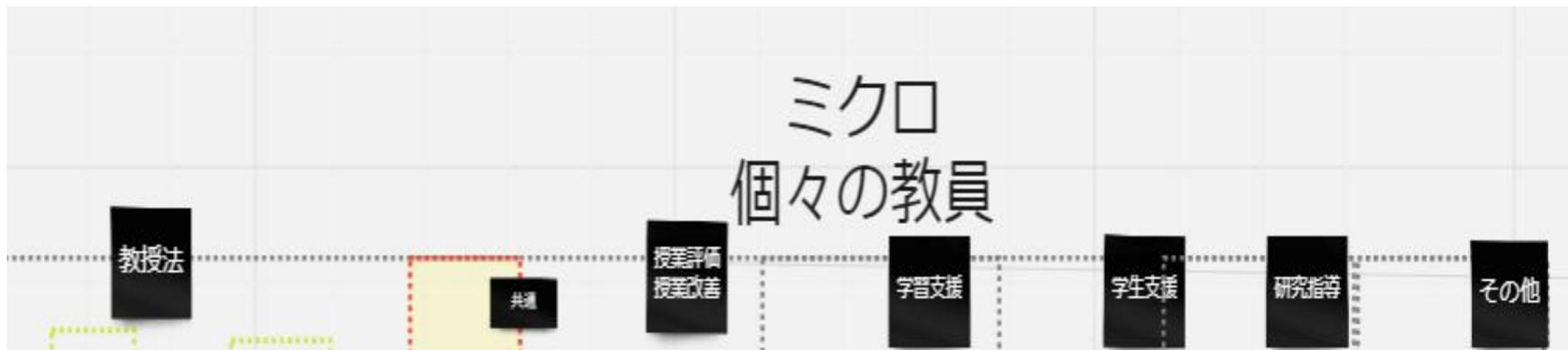
第1回ミーティングを受けて、分類した内容に関する検証

→①現行のFDプログラムはマイクロ I・IIに偏っている傾向が確認された。



## 2. FDマップの開発 【第2回ミーティング】

→②偏りのあるミクロ I については、  
【教授法】 【授業評価・授業改善】 【学習支援】  
【学生支援】 【研究指導】 【その他】  
と6分類に整理しなおした。



## 2. FDマップの開発 【第3回ミーティング】

第2回ミーティングを受け、整理した6分類を検討

→③6分類のうちの教授法の下位分類として、【授業計画】 【AL】 【双方向コミュニケーション】 【オンライン】 【学習評価】 の5分類に分類することができた。



## 3. 成果①

### (1) FDプログラム開発における利点

FDプログラム開発の視点から、現在提供するFDプログラムの偏りに気づくとともに、4つのコア校の強みと弱みを可視化することができた点。

### (2) 加盟校教職員における利点

本マップを確認することで、コア校全体でどのようなFDプログラムが実施されているのかを容易に把握することができるほか、個人の問題意識や興味に基づきFDプログラムにアクセスすることが可能となる点。

## 3. 成果②

FDマップを分類する際に、レベル（横軸）と段階（縦軸）において、明確に分けることが難しい「プログラム」が複数存在していたこと。

→これは、FDの多様化が加速していることを示している可能性がある。他方で、今後のFDプログラムの開発においても考慮し得る点と言えるだろう。

## 3. 今後の展望

### (1) FDマップの枠組みの再検討

現行のFDプログラムをよりわかりやすく整理するための枠組みの検討が求められる。現行最も充実しているミクロレベルのⅡ基本のプログラムに限定したマップを作成するなどの工夫が可能か。また、全プログラムの分類方法も見直すべきだろう。

### (2) プログラムの高度化、デジタル化

ミドル以上の領域を扱うプログラム、あるいは「Ⅲ応用」以上のニーズに応えるプログラムの開発が求められる。また、「Ⅱ基本」のプログラムについても講義部分（「Ⅰ導入」に該当するレベル）をオンデマンド教材化し、対面プログラムとしては参加者の活動を主体としたプログラムの構成も検討すべきであろう。

### 3. 今後の展望

#### 本研究の位置づけ

→ 専門部会によるSPOD将来構想（R4-R9）のテーマ研究の1つ

テーマ1 SPOD-FDマップ作成

本発表グループのテーマ

テーマ2 オンラインによるFDプログラムの共同

テーマ3 大学院生を対象としたプレFDプログラムの開発

テーマ4 分野別FDプログラム開発・FD担当者養成

新たなFDの開発へ

→ 今回のFDマップ作成によって、SPODのFD専門部会の各研究テーマ、プログラム開発の具体的な方向性や役割の明確化に寄与。